

鳥獣けものみち

野生動物と戦う地域に密着!

(写真)2022年5月 栃尾地域でワナ設置中

キー♪
(おいしそう)

ブー♪
(そうだね)



地域で取り組む対策を支援します!!

●鳥獣緩衝帯の整備補助

田や畑周辺のやぶや雑木林は絶好の隠れ場所になります。見通しの良い緩衝帯を整備しましょう。

緩衝帯整備前



整備後



●電気柵の導入補助

栄養満点な農作物は野生動物が狙うお宝です。電気柵を導入して、侵入を防ぎましょう。

サル用



イノシシ用



●不要果樹等の伐採補助

手入れをしていない果樹は野生動物を引き寄せる原因になります。不要な果樹は伐採しましょう。

不要果樹例



伐採作業中



補助額や対象者は、No.03 (2022.4.25発行) で紹介していますので、ご覧ください。

■イノシシ対策に取り組み、
下富岡区(和島地域)に伺いました。

Q どのような対策を
されているのですか？

イノシシの被害について、市の担当者と話し合いながら対策の基礎を学び、集落内でも問題意識を共有しました。

次に、「捕獲」に取り組みたい、と考えたのですが、地域在住の猟師が少ないこともあり、「自分たちができることをやってみよう」と、わな免許の取得を決定！昨年、5名が試験を受

け、無事全員が合格しました。

その後、市と捕獲方法について相談するなかで、鳥獣被害対策実施隊の東條さん(与板地域)と連携できることになりました。

ちなみにイノシシが掛かった場合は、東條さんと呼ばれる、止め刺し(銃による捕獲)をしてもうとしています。

また、水田の「防除」にも取り組んでいて、イノシシがよく出る場所には、電気柵を設置しています。



▲林の中で、イノシシが通る「けもの道」の見分け方などについて、研修会を受ける様子。

8月上旬、ついにイノシシを捕獲！



下富岡区長 中村さん、みなさん
鳥獣被害対策実施隊 東條俊郎さん

Q 役割分担について
教えてください。

免許所持者がわなを仕掛け、見回りは集落で分担しています。

例えば、月々水曜日は敬老会が2人1組で見回っています。

免許所持者が全部やるのではなく、集落ぐるみで被害を減らしたいと思っています。

Q 大変なことは？

免許を取ったといっても、まだまだ捕獲のノウハウがないので、市から研修会を開催してもらいました。
(上部の写真)

また、真夏のわな設置や見回りは大変ですが、地域からお礼の言葉をもらって、やってよかったなと感じています。

Q 今後の展望を
教えてください。

作物や集落を守るため、捕獲や防除の取り組みを今後も続けていきます。

そのためには、集落の皆さんに取り組み内容をしっかりとお知らせすることが大切だと思っています。

あとは、冬にイノシシが獲れたら、みんなで牡丹鍋を食べてみたいですね(笑)。

コラム

今、注目の電気柵！ こんな失敗をしていませんか？

やってしまいがちな失敗例をご紹介します。正しく設置して作物を守りましょう！



▲アースはまともず、離して地中まで埋めましょう。
◀園芸棒などを添えると漏電し、電圧が下がります。



▲電圧を確認し、維持管理しましょう。4,000V以上が効果的です。